

分類：臨床医学Ⅴ

授業科目名：医学医療総合講義Ⅱ（Integrated Clinical Clerkship Conference 2） - クリニカルクラークシップ統合カンファレンスⅡ

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643003

開設学期等：第1週～第18週

単位数：2

1. 主任教員

長谷川 仁志（教授、医学教育学講座、6067、オフィスアワー：要アポイント）

2. 担当教員

長谷川 仁志（教授、医学教育学講座、6067、オフィスアワー：要アポイント）

各回の担当教員（）

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

ねらい

CC2および卒後臨床研修の充実に向けて、医学生時代に経験すべき何科の医師としても必修の主要症候・病態に対する臨床推論および基本対応、総合的な判断力の質を、CC1の期間中に向上することを目標とする。

CC1期間中の毎週金曜日14時20分から大講義室に集まり、臨床実習班ごとに着席して行われるチーム基盤型カンファレンス。

下記の主要41症候のうち、その週に割りあてられた症候を有する症例を担当教員が提示し、その都度、医療面接、身体診察、一般検査などの臨床推論の過程や基本対応を個人や実習班ごとに考えながら進める。

これにより、個人および臨床実習班ごとの症例検討に関するモチベーションを高めるとともに、各科臨床実習中に必ずしもすべて経験できない主要症候に対する医療面接、身体診察、鑑別診断、各種検査、結果解釈、治療選択、EBMの批判的吟味、病状説明（医師・患者・家族とのコミュニケーション、）等の他、下記の2.基本診療に関連する重要事項について、CC2や卒後臨床実習の際に知っておくべき一般的なピットフォールを含めて経験保証する。

この際、常にプロフェッショナリズム、医の倫理、医療行動科学、医療安全、EBM、医療法（制度）についても意識して学び経験値を高める。

学修目標

1. 主要41症候の臨床推論（医療面接、身体診察、各種検査の適応と解釈）と、初期対応・基本的対応ができる。
（1-1～1-2、2-1～2-7、3-1～3-6、4-1～4-7、5-1～5-3）

- 1) 頭痛
- 2) 胸痛
- 3) 腹痛
- 4) 背部痛
- 5) 腰痛
- 6) 呼吸困難
- 7) 咳・痰・血痰・咯血
- 8) 動悸
- 9) めまい
- 10) 失神
- 11) 意識障害
- 12) 痙攣
- 13) 運動麻痺・筋力低下
- 14) しびれ

- 15) 構語障害
- 16) 視力障害
- 17) 複視
- 18) 不随運動・振戦
- 19) ショック
- 20) 発熱
- 21) 全身倦怠感
- 22) 貧血
- 23) リンパ節腫脹
- 24) 関節痛・関節腫脹
- 25) 悪心・嘔吐・食欲不振
- 26) 嚥下障害
- 27) 体重減少・体重増加
- 28) 発疹
- 29) 胸水
- 30) 浮腫
- 31) 尿量・排尿の異常
- 32) 血尿・タンパク尿
- 33) 黄疸
- 34) 吐血・下血
- 35) 便秘・下痢
- 36) 腹部膨隆(含・腹水)・腫瘤
- 37) 月経異常
- 38) 不安・抑うつ
- 39) せん妄
- 40) 物忘れ・認知能の障害
- 41) 外傷・熱傷

2．基本診療に関連する重要事項

症例ベースの課題を検討・解決していく過程で、下記の基本診療に関連する重要事項の経験値を高めるとともに、その際の医療行動科学、倫理的な行動について考える。

(1 - 1~1 - 2、2 - 1~2 - 8、3 - 1~3 - 7、4 - 1~4 - 8、5 - 1~5 - 5、6 - 1~6 - 2)

- 1) 外来診療のポイント
- 2) 各科検査について
- 3) 各科手術について
- 4) 医療安全
- 5) 患者・家族への説明
- 6) 文献・情報ネット検索
- 7) EBM の適応(エビデンスの批判的吟味)
- 8) 輸液
- 9) 感染症・抗生剤
- 10) 検査・術前後リスク評価・管理
- 11) 抗血栓薬
- 12) 緩和ケア、ターミナルケア、ACP(Advance Care Planning)
- 13) 外来化学療法
- 14) 地域包括ケア、在宅医療

- 15) 医療福祉、関係書類
- 16) ポリファーマシー
- 17) フレイル、サルコペニア
- 18) トラベルメディスン
- 19) 外国人患者への対応（含・疾患の国際化）
- 20) 飛行機内、乗り物内等での対応
- 21) 災害医療
- 22) 困難な患者
- 23) 看取り（終末期、予期せぬ急変）
- 24) 病理解剖
- 25) 死亡診断書、死体検案書
- 26) 法医解剖

本科目は、各分野専門的な実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

内科診断学（医学書院）、聞く技術（日経 BP 社）

5. 成績評価の方法

出席態度、学習態度（個人・チーム）。

CC1 終了後の 5 年次夏の卒業中間統一試験を中心に、CC2 終了後の 6 年次秋の卒業統一試験および卒業時 PCC-OSCE 自学課題の試験範囲にもなる。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

主要症候や病態への対応について、初診外来，外来診療，救急，入院中，検査前後，手術前・後の対応など，日常的な重要症例ベースの場面設定で実践的に学習します。各回の主要症候の臨床推論について復習してくること。当日は、臨床実習班ごとに指定された席に着席すること。

日程および各回の担当教員等の詳細については後日，お知らせします。

講義内容・具体的到達目標・学修目標					
開講月日	時限	授業形式	講義内容・具体的到達目標・学修目標	担当教員	場所